英国三昧

高校3年A組　上原 豪太

読む前に！

- 旅行からしばらく経っているため、一部行程などに曖昧なところがあります。
- 情報は旅行時点の2019年、または執筆時点の2020年です。
- 行程を地図で追っていただけると、より楽しめると思います。

最後まで、是非楽しんでご覧ください

1 日目

2019 年 8 月、朝、羽田空港の国際線ターミナル（現第 3 ターミナル）に到着。ここからロンドンに向けての旅が始まる。夏休み期間のため空港内の店舗はどこも賑わいを見せている。チェックインや出国手続きを終え搭乗口付近へ。しばらく近隣の店で時間を潰していると、搭乗開始のアナウンスが流れてきた。勿論上級クラスのお客様ではないので、自分の搭乗の順番を待つ。ようやくエコノミーの順番がやってきた。長々機内の通路を歩き、決められた座席までやってきた。長距離国際線ゆえ機体は大きいが、上級クラスがその多くを占め、エコノミークラスのブロックは猫の額ほどしかない。

定刻通りドアが閉まり、飛行機は動き回りだした。しばらくするとエンジンを大きく唸らせ、離陸を始めた。飛行機自体に乗るのが久しぶりであったため、非常にワクワクする。機体はスムーズに飛び出し、窓から東京湾が見えてきた、旋回しながら進路を北に合わせ、ロンドンに向かう。30 分ほどたって機体が安定飛行に入った頃、私は機内で何を見ようか前のモニターを探り始めた。どうやら色んな番組があるようだ。なにせまだ 12 時間もある。先ほど配られた機内食を食べながら様々なエンターテイメントを楽しんだ。

日本時間の 23 時を回った頃（現地時刻 15:00）、ロンドン上空にやってきた。旋回する度に窓からロンドンの街並みが見える。空港混雑のため上空でしばし待機した後、飛行機は混雑するヒースロー空港に滑り込むように到着した。客室乗務員から現地の時刻や天気、スリや置き引きに注意するよう放送され、海外に来たという感じが出てきた。約 13 時間のフライト途中で寝たとはいえ

体は疲れ切っている。荷物受け取りを済ませ入国審査へ。以前訪れた際には窓口の行列に長時間並んだ記憶があるため、入国審査が自動の機械になっていたことには驚いた。
ここで wi-fi に接続すると半日分のメールや LINE、その他の通知が一気に入ってきた。普段いくらスマホに依存しているのかをよく実感した。日本は夜だが、まだこちらは 24 時間を 3 分の 1 も残している。

▲パディントン駅にて、
一番手前がヒースローエクスプレス、
奥に停まっているのは日立製の Class800 だ。

ヒースロー空港からはヒースローエクスプレスという空港連絡鉄道に乗車し、ロンドン中心部のパディントン駅へ向かう。この列車はヒースロー空港とロンドン中心部を 15 分で結ぶ。車内は固定クロスシートで無料の wi-fi が付いて快適な反面、乗車当日に券売機で切符を購入すると、普通席(スタンダードクラス)でさえ片道 22 £と非常に高い。ネットで切符を事前に購入すると割引が適用されるので、予定が決まっている方は事前の購入をお勧めする。
列車は最高 100 マイル(約 160km)の速度でロンドン中心に向かって走り、終点のパディントンにはあっという間に到着した。荷物が多いため、パディントン駅からはタクシーでホテルまで向かう。
ロンドンのタクシーは「Black Cab」と呼ばれる。ロンドンのタクシー運転手になるには、ノリッジ試験(Knowledge of London)と呼ばれる世界有数の厳しい試験に合格しなければならない。この試験は運転技術だけでなくロンドン市内の地理・道路・施設を全て把握し、目的地までの最短距離を即座に示さなければならないため、ドライバーになるために 3～4 年ほどかかる。しかし、近年はタクシーよりも安価で気軽に乗車出来る Uber の参入により、タクシー利用者が奪われ、タクシードライバーと Uber ドライバーの間でトラブルが起こることもあるそうだ・・・。
タクシーに揺られること十数分、ホテルに到着。夕飯時になっていたため、ホテルにチェックインしてすぐ、近くのショッピングセンターに夕飯を食べに行った。通り沿いの建物や標識などを見て異国に来た感じを味わう。ショッピングセンターの中は万国共通といった感じの雰囲気(なんちゃって和食などの店舗を除いて)。夏休み期間だったためか、家族連れが多く賑わっていた。ロンドンの緯度は北緯 51 度と比較的高緯度(樺太中部あたり)に位置するため、夏の日暮れは遅く、夕食を終え、ホテルに戻ってきた 20:00 でも空はまだ明るい。フライトの疲れや時差ぼけも相まって、ホテルに帰ってからはすぐ眠りにおちた。一日が長かった。

2 日目

おはようございます。現地時間では 7:30、日本時刻では 15:30、時差ぼけは意外とすぐに取れたみたいだ。学校の時と違って、身支度は早い。支度をすぐに終え朝食会場へ。イギリスの朝食はイングリッシュ・ブレックファーストとも呼ばれる。そんな朝食を堪能し、部屋に帰ってしばし見慣れぬ TV 番組を見た後、ホテルを後に駅へ向かう。
ロンドンは霧の都などと言われるが、今のところは晴れているみたいだ。ノッティングヒルゲート(Notting Hill Gate)駅まで歩き、オイスターカード(Oyster Card)を購入。東京で言うところの Suica や Pasmo みたいなものだ。セントラル線(Central Line)に乗車。日本語訳すれば中央線だ。最近

は日本でも上野東京ラインだの仙石東北ラインだの“～ライン”が浸透してきているため、セントラル線というよりもセントラルラインの方が違和感を覚えない気がする。ロンドンの地下鉄運賃はゾーン制である。ゾーンは 1～9 まであり、1 は都心エリア、9 に近づくにつれ郊外になっていく。日本の地下鉄と比較して運賃は高い印象だ。

地下鉄の地図はこちらから http://content.tfl.gov.uk/standard-tube-map.pdf　(PDF 注意)

▼ロンドン地下鉄の運賃、**一部区間のみ掲載**。　単位は￡(ポンド)　1￡＝約 140 円

ちなみに東京メトロの初乗りは 168 円、都営は 178 円だ。(IC 運賃)

ゾーン	現金 (紙のきっぷ)	ピーク時※	オフピーク時	一日上限運賃 (エニータイム)	一日上限 (オフピーク)
1 内	4.9	2.4	2.4	7.0	7.0
1＝2	4.9	2.9	2.4	7.0	7.0
1＝3	4.9	3.3	2.8	8.2	8.2

※平日 6:30-9:29 と 16:00-18:59 に改札を入場した場合に適用。ただし、16:00-18:59 の間にゾーン 1 の外側からゾーン 1 まで乗車する場合はオフピーク料金が適用。

※一日上限運賃に達すると、それ以上は引かれなくなる

イギリスの地下鉄はその特徴的なトンネル形状から“Tube”と呼ばれる。実際このような形状の路線は比較的後期に出来た路線であって、初期に開通した路線は日本などと同様の四角いトンネルだ。このセントラル線はロンドンの地下鉄で最も多くの人を運ぶ路線だ。十数分の乗車で、ホルボーン(Holborn)駅に到着。そこから 10 分ほど歩いてロンドン交通博物館(London Transport Museum)に到着。

▲セントラル線の駅と車体、ドアが弧を描くようになっている。

入ってすぐの所に、東京の地下鉄路線図が壁一面に描かれている。まだ着いて一晩しかたっていないのに日本語がなぜか懐かしく思えた。館内の展示は子供でも理解できるように書かれているので見ているだけも楽しい。展示やお土産購入を一通り済ませた後は昼ご飯だ。

▼チャリングクロス駅にて列車と車内の様子

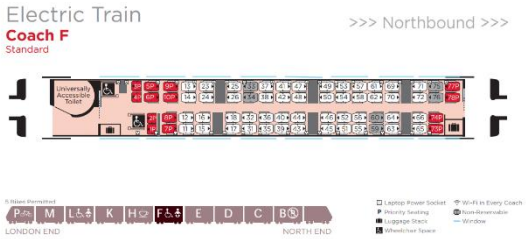
昼食を終え、テムズ川沿いのチャリングクロス(Charing Cross)駅まで徒歩で移動し、ロンドンブリッジ駅まで乗車する。駅からは巡洋艦ベルファスト号を横目にタワーブリッジへ。「ロンドン橋落ちた～」で有名なのはこの橋の一本上流に架かっているものだ。タワーブリッジはテムズ川に架かる跳開橋であり、現在でも一日に数回開閉を行っている(開閉時刻はウェブサイトで確認できる)。この橋のタワーという名前は後述のロンドン塔に由来している。

タワーブリッジを渡り、ロンドン塔へ向かう。この建物は約 1000 年前にイングランドを征服したウィリアム征服王が強固な要塞の建設を目的として建てられた。王朝が変遷しても宮殿や造幣所、天文台、王立動物園さらには処刑場としても用いられ、1988 年にはユネスコ世界遺産に登録されている。見学後近くのタワーヒル(Tower Hill)駅からサークル(Circle)線に乗車し、ホテルまで戻った。サークル線は大江戸線と同様に六の字運転を行っている。多くの区間で他のディストリクト(District)線やピカデリー(Piccadilly)線、メトロポリタン(Metropolitan)線などの他の地下鉄と線路やホームを共用しているため、乗り間違いには要注意だ。

▲タワーブリッジ

3 日目

今日はホランドパーク(Holland Park)駅からセントラル線でトッテナムコートロード(Tottenham Court Road station)駅へ、ノーザン(Northern)線に乗り換えて数駅、キングスクロス・セントパンクラス(King's Cross St. Pancras station)駅に到着。この駅はハリーポッターの 9 と 4 分の 3 番線で有名なキングスクロス(King's Cross)駅と、パリやベルギーなどのヨーロッパ大陸へ向かうユーロスターなどが発着するセントパンクラス(St. Pancras)駅の最寄り駅だ。今日はキングスクロス駅からロンドン・ノース・イースタン鉄道(LNER)の東海岸本(East Coast Main)線に乗車しイングランド北部の都市、ヨーク(York)に向かう。ロンドンからヨークまでは約 300km、東京から新潟より少し短い程度だ。車両は日本では 1、2 号車などのように数字で表されるが、イギリスでは Coach D,E などのようにアルファベットで表される。



座席表は LNER のホームページより https://www.lner.co.uk/faq/on-board/seating/lner-seat-maps/ ▲

車内は一部見合い式の固定クロスシートであり、足下は狭く感じた。イギリスの鉄道は標準軌(1435mm)で、地盤も固いためか、在来線でも時速 200km 程度で飛ばす。途中いくつかの駅に止まり、ヨークまで 2 時間で到着した。駅を出てしばらく歩くと世界最大規模の鉄道博物館であるイギリス国立鉄道博物館が見えてきた。入館時に寄付を求められるが、入館は無料！館内には日本の 0 系新幹線がユーロスターと共に展示されている。0 系は日本の博物館でも見てきたが、異国の地で見る 0 系は何か不思議な雰囲気だ。他の様々な展示解説の英文と悪戦苦闘しながらも、展示を堪能した。昼食の後、ヨークの街の観光に繰り出す。まずはヨークミンスターだ。ゴシック様式の細かい装飾が美しい大聖堂で、高さは約 160 メートルと、ヨークの街の至る所から臨むことが出来るランドマークだ。他にも映画の世界のような石畳の細い商店街を巡り、お土産を購入。そろそろ帰りの列車の時間だ。

帰りは同じく東海岸本線を走るグランドセントラル(Grand Central)鉄道でキングスクロスまで戻る。イギリスの鉄道は民営化以後、線路の管理と列車の運行する会社は別々であり、同じ線路上を様々な列車運行会社が走らせるという形態になっている。まるで飛行機のようだ。行きと同じルートだが、車両や会社が違うので往路とはまた雰囲気が異なる。帰りの列車は無停車なため、心なしか早く感じる。終点キングスクロスには定刻通り 19 時すぎに到着。まだまだ明るいので、しばしホームで様々な列車を観察した後、地下鉄でホテルへ戻った。

4 日目

▲ディストリクト線ウィンブルドン駅にて

▼ロンドンヴィクトリア駅にて

この日は予備日で、予定を特に入れていなかったので、朝はゆっくりしていく。午後はディストリクト線に乗車し、ウィンブルドン(Wimbledon)へ。ここはテニス 4 大世界大会の 1 つである、ウィンブルドン選手権開催の場所として有名だ。ここでロンドントラム(London Tram)に乗り換える。このエリアはロンドンの中心部からは外れるため、観光客はほとんどいない。このトラムは 2000 年に開業し、ほとんどの区間が専用軌道なため、比較的スピードを出す。30 分の乗車でウエストクロイドン(West Croydon)駅に到着。ここでゴヴィア・テムズリンク鉄道 (Govia Thameslink Railway)に乗り換え、約 40 分の乗車でロンドンヴィクトリア(London Victoria)駅に着いた。駅を出てしばらく歩くと、バッキンガム宮殿が見えてきた。ここは近衛兵交代が見物できる場所として有名だ。

▲ロンドントラム、ウィンブルドン駅にて

5 日目

▲ロンドンバスにも乗車(別日撮影)

5 日目。今日もセントラル線に乗車する。トッテナムコートロード駅で下車し、大英博物館へ、夏休みまっただ中であり、入館までの待機列が長く伸びている。手荷物検査を受け、いざ館内へ。先日のイギリス国立鉄道博物館同様、この大英博物館も全ての人に楽しんで貰いたいということで入場は無料のようだ(特別展などは別途料金が必要)。館内にはロゼッタストーンや、パルテノン神殿の彫刻、死者の書など世界中の貴重な物品が数多く展示されている。私は世界史選択のため、資料集で見たような品々を間近に目にし、歴史の奥深さを実感させられた。大英博物館見学後は、ロンドン

中心部のハイドパーク(Hyde Park)など広大な公園を散策し、ロンドンバスに乗車してホテルに戻った。

6 日目

今日はロンドンから足を伸ばして、イングランド東部のイースト・アングリア(East Anglia)地方へ 1 泊の小旅行を行う。セントラル線に乗車し、リバプールストリート(Liverpool Street)駅で下車。グレーターアングリア(Greater Anglia)鉄道に乗車する。平日朝の郊外方面の列車だからか、安い価格で切符が販売されていたので、一等車に乗ることにした。約 100km、1 時間 10 分ほどの乗車でイプスイッチ(Ipswich)駅へ。ここでイプスウィッチ・イーリー(Ipswich-Ely line)線に乗り換え、30 分の乗車で、ベリーセントエドマンド(Bury St Edmunds)という街に着いた。駅で知人に合流し、車に乗ること 40 分。ブレッシンガム・スチーム&ガーデンズ(Bressingham Steam & Gardens)という場所に到着した。ここはイングリッシュ庭園の他、蒸気機関車の展示や、施設内を走る蒸気機関車に乗ることが出来る素晴らしい施設だった。園内にはいくつかの路線があり、転車台などもあるなど驚きが一杯だった。

▲ドアが開き戸になっている

ブレッシンガム・スチーム&ガーデンズの SL のページです。SL の走行動画などが見られます。

https://www.bressingham.co.uk/explore/steam.aspx

SL や庭園を堪能した後、ベリーセントエドマンドまで戻ってきた。今晩はこの街のホテルで 1 泊する。一日中賑やかなロンドンと対照的に、ここでは日が暮れると、あたりは暗く、静かになった。

7 日目

ホテルを出て、歩いて駅へ向かう。行きは車でホテルまで送って貰ったが意外と駅まで遠かった。約 40 分の乗車で、ケンブリッジ(Cambridge)駅に到着。ここは大学の街として有名で人口約 12 万人の内、大学生が約 2 万人と人口の約 16%を大学生が占めるそうだ。駅を出てケンブリッジ大学まで散策し、昼食を済ませた後、駅に戻る。ケンブリッジ線に乗車し、約 1 時間の乗車でキングスクロスに到着した。そこからは地下鉄でホテルへ帰ってきた。

8 日目

今日はイギリス滞在最終日、19:00 過ぎの飛行機で日本まで戻る。時間に余裕を持ってもホテルを 14;00 までに出れば間に合いそうなので、お土産の買い足しに行ったり、ホテル近くの公園に散策に出かけたりした。昼食は近くのレストランでフィッシュアンドチップスをいただく。この滞在中に何回食べたか。

▲ホランドパーク内にある福島庭園、東日本大震災からの復興を願う目的で、従来あった京都庭園に隣接する形で 2012 年 7 月にオープンした。

その後ホテルで預かってもら

った荷物を受け取りパディントン駅へ。ここからは行きと同じくヒースローエクスプレスに乗車する予定だったのだが・・・。駅に到着すると改札付近で人が滞留している。どうやら先ほどトラブルが発生し、ヒースローエクスプレスをはじめとする西方面の列車の運転を取りやめているらしい。今までの行程は全て上手くいっていたため、まさか最後の最後でトラブルが来るとは・・・。地下鉄で行こうとも考えたが、あの狭い車内に大荷物を持っての乗車は個人的に避けたい。しばらく考えた結果、Uber で空港に向かうことに、幸いすぐにドライバーが来てくれて空港へ直行。日本でも Uber は良い意味でも悪い意味でも話題だ。確かに Uber は便利だった。事前に目的地や値段も決まっており、英語がそこまでしゃべれなくても比較的簡単に利用できる。ヒースローエクスプレスでは 15 分で行けるところを、高速道路を利用し約 1 時間で空港へ。時間に余裕を持っていて正解だった。

ターミナルに入るとちょうどチェックインが始まった所だった。チェックインカウンターで荷物を預ける際、スーツケースの重量過剰が心配だったが、ギリギリセーフ。手荷物検査などを受け、しばしゆっくりした後、東京行の搭乗口に向かう。多くの日本語が飛び込んできた。帰りは偏西風のおかげで往路よりも 1 時間ほど早く到着できる。帰りもエコノミー席なので最後の方に搭乗。機内では学校の課題、部誌の停車場の制作を進めた。

約 11 時間後、ようやく東京上空に戻ってきた。羽田空港には定刻で到着。ボーディングブリッジに出ると東京特有のムワっとした熱気が飛びかかってきた。もう既にロンドンのさわやかな夏が恋しい。入国審査や荷物受け取りを済ませ、無事に帰宅した。

———

この度は閲覧いただき、ありがとうございました。昨年まで、主に部誌編纂や路研記事の制作などに携わっていましたが、高輪生活の最後に自分自身でこのような旅行記を書くことが出来、大変光栄です。記事の掲載を快く応じてくれた部長の淺沼君や、記事の編纂や印刷、製本に携わる多くの方々に感謝します。